

プログラム1「ハラスメントを学び舞台運営に活かす！」質問

No.質問	講師からの回答
<p>1 上の人が態度や姿勢を変えていくことが重要ということでしたが、下の者はどのような態度でいればよいのでしょうか。先輩や上司がセクハラ・パワハラを過度におそれていて、距離感を感ずます。</p>	<p>距離感を感じてしまうのはさみしいですね。関係性の構築は相互からですので、下の方々からも日頃からコミュニケーションをとっていくことをおすすめします。朝の挨拶やお礼にちょっとした一言を添えて会話をしていくことから上司の方々も接し方がつかめてくる部分があります。距離をつめていくイメージです。どうしても何かあるとすぐハラスメントを言われてしまう風潮があり、どうしていいかわからないことも多いですので、ご自身もハラスメントについてどう思っているのかや、もし嫌な気持ちになって言い方を変えてほしい場面があるのであれば、こういう言い方にしてほしい、等お伝えになってはどうかと思います。そう言える関係を作れるといいですね。</p>
<p>2 後輩や部下にあたる人に「頑張れ」や「期待している」と言葉にして伝えることも受け手によってはプレッシャーを感じる、また含みがある言い方だと思ってしまう、パワハラに認定される場合があると耳にしたことがあります。判断ポイントとしてはパワハラにはあたらぬと思うのですが、実際にそういった事例はあるのでしょうか？</p>	<p>いろいろ話を聞くとどれもパワハラなのかなと思ってしまうですね。ただ単に「がんばれ」や「期待している」というだけでパワハラになることはまずないです。もちろん、人によってはプレッシャーを感じることはあるかもしれませんが、プレッシャーを感じさせたからパワハラというわけでもなく、ある程度の負荷をかけることはあります。ただ、ドラマでそういうシーンがあったみたいですね。（認定する方向の話で）それだけでは通常はハラスメントの訴えがあっても認定されにくいのではと思います。ただ明らかに負荷がかかっていて本人が苦しくて、これ以上辞めてほしいと訴えていたり、何らかの病状で負荷をかけることが好ましくないことがわかっているなかで、これらの言動が続けられたらハラスメントのほうに傾いてくと思います。あと頑張れとか期待しているというだけで、具体的な指示が全くないまま、教えてくれない等という状態があるとパワハラに傾いていく感じはします。ただ、大事なのは相手に合わせた言葉のかけ方かだと思います。</p>
<p>3 相手を尊重する、という点で、長く一緒に勤務している人には、修正・訂正してほしいが考え方が違うだろうとか理解が難しいだろうとか、先に配慮（忖度？）したり、うまく伝えられず、逆にモヤモヤすることがあります。また、嫌だとか、ハラスメント的にちょっと触れるかも？とか、その場では言えず、あとから思い出すことがあります。そうした時の良き対応、アドバイスがあればお願いいたします。</p>	<p>うまく伝えられずモヤモヤしたりするとつらいですね。人によって捉え方、考え方が脳の構造レベルで違ったりします。よく使う部分が違ったりして、話し方や伝え方、捉え方が異なり、正反対の人同士が話すときと全くかみ合わないということもあります。またどうしても伝わらない場合は、間に誰か入ってもらってスムーズにいくこともあります。相手を尊重する、ということは相手に合わせて伝えたり、コミュニケーションを取ったりすることでこの齟齬をなくしていこうとすることが重要です。これは対話を繰り返して“お互いに”掴んでいくことが大事です。ので、トライして違っていたら修正を繰り返して習得していくことになるかもしれません。何か相手に修正、訂正してほしいのであれば、ご自分が感じていることと、どういう状態になりたいのか等をお伝えになってはと思います。相手を責めたり、否定したりしないで、ご自分の希望を伝えるのであれば、ハラスメントとはすぐにはならないのではと思います。宣伝ではありませんが、そういった個人の特性を診断したり、個々が違ってもどのように感じたりするのかを体感する研修なども行っております。</p>
<p>4 職場では、特に上の方に多いのですが、相手の話を遮ることが多々あります。ハラスメントまではいかない、という感じですが、受取側によってはそうなる危険もあるなど感じています。それはハラスメントですよ、と言ってしまうのは簡単かもしれませんが、ご本人も悪気がある訳では無く…。その危機感を持っていただくための対策などありますでしょうか。</p>	<p>話を聴いてくれないのは困りますよね。状況にもよりますが、話を遮って自分の言いたいことだけ言って終わったりするのが続くとハラスメントとなるケースも出るかと思えます。忙しかったり、結論をすぐ出したかったり、状況はいろいろあるかとは思いますが・・・。ご自分が話すときには、いったん私の話を全部聞いてからコメントしてもらえますか、とか、このくらいの時間を予定してありますが、お時間大丈夫ですか、とか、先に話を聞いてもらいたいということをお伝えしてもらったり、関係性ができているのであれば、話を遮られたときに、あ、今私の話を最後まで聞いてほしいです、等と言えるといいのですが。また周りの方で気づいたら、あとでいったん話を聞いてあげてはどうか、等お声がけするのもあります。その場で気づいてもらうのが大事だとは思いますが。あとこちらも宣伝ではありませんが、傾聴の訓練等を受けてもらったりするのもいいかと思えます。</p>

プログラム2「ピアノの基礎！点検！からの拡張ピアノ奏法！」質問

No.	質問	講師からの回答
1	施設トップの考え方が大事だと感じました。そのうえで、どのような方向性でピアノ音楽に取り組むにしても、施設は同じ調律師さんと二人三脚で行くのが良いのではないかと思います。異なる調律師さんをお願いしなければならない場合は、管理するものとしてよい方法があれば教えてください	専属の調律師に相談してみるのがよいと思う。
2	利用率が毎月100%でほぼ毎日ピアノを使っているのに、負担がとても大きく、弦切れたり、響板が割れたりしているのに、特殊奏法はお断りしております。市は修理費を、なかなか出せないのに、まだそのままにしていますが、そういう状態でも特殊奏法は良いのでしょうか？	状況下を逆手にとり、保守点検前などが入る前などに拡張ピアノ奏法のワークショップをやってみるという考え方もあるかもしれない。
3	●門天ホールでは、拡張ピアノ奏法による演奏がどのくらいの頻度で行われているのでしょうか？ ●門天ホールでの拡張ピアノ奏法の公演は年間何本くらいありますか。頻度が気になります。	平均すると月に1回程度。頻繁に調律を行っているのに、状態把握に努めている。
4	●両国門天ホールでは実際に拡張ピアノ奏法でお断りした例はありますか？ または使用規定の中で具体的に禁止している使用例はありますか？ ●門天ホール様でお断りせざるを得ないことはあったのでしょうか？あった場合どのような奏法だったのでしょうか？	ありません。実現するためにはどうしたらよいか、代替案を含めて関係者で考える。
5	拡張ピアノ奏法管理ガイドライン通りに進めるとして、一つのコンサートができるまで、おおよそどれだけの期間が必要になりますか？ 自主事業ではある程度期間がかけられたとして、現状の会館利用においては、一般の利用で行うには、実現は難しいのではないかと感じるところです。またこのガイドラインをまた一から制作するとして、制作自体もどれだけの期間が必要になると考えられますでしょうか？	演奏者には、自分のピアノで行えないことを門天ホールのピアノで行うことはするな、と伝えている。音楽家、調律師、施設管理者、メーカーがそれぞれの立場で拡張ピアノ奏法について学ぶことが大切。ピアノガイドラインは、0から作るのではなく、もんでんで作ったガイドラインを参考にしながら、自身のホールでは何か必要で何が足りないかを検討しながら作り直していただくと良いと思います。
6	参考のQRの表示時間が短すぎて記録取れません。後で再掲示をお願いします。	未来に受け継ぐピアノ音楽の実験プロジェクト (https://ep.monten.jp/) 拡張ピアノ奏法ガイドライン (https://ep.monten.jp/cms/wp-content/uploads/2022/04/pianoguidline.pdf)
7	自分が勤めている劇場では、ご利用者から「調律依頼」があった場合のみ、ピアノ調律を実施します。長期間調律がされていない場合、「調律依頼」をされないご利用者から「音がずれている。」とお声をいただくこともあります。定期的な保守点検は実施しています。基本的な調律は常におこなっておくべきでしょうか？	調律＝音を合わせる作業、保守点検＝動きがしっかりしているかを確認して標準化する作業である。地域により異なるが、保守点検に調律を組込む所、動作確認のみで調律は組込まれない所とある。ご質問では、調律は組込まれていないとのことなので、年に1～2回は保守点検と共に調律をされた方がピッチが下がる可能性は低くなるかと思う。
8	1:よく指で直接弦に触れて演奏すると、将来的に弦が錆びて切れやすくなると聞いた事がありますが本当でしょうか？ 2:スモークによるピアノへの影響をご教授いただけますでしょうか？ またスモーク使用後のメンテナンスはどのように行えば良いのでしょうか？	1:弦は防錆びの処理はしていないため、直接触れると皮脂により錆びの原因になる。切れも錆びと因果があり良い方向ではないが、門天ホールのガイドラインを参考されたい。(https://ep.monten.jp/guideline) 巻き製の銅線は直接触ると変色や隙間に物が入ると詰まり、音が出ない可能性があるため注意が必要。適切な手入れをすることが大切。 2:外装の部分は強固な塗料であるので一般的な量であれば問題ないと考える。大量に直接スモークをかけ物質がピアノに堆積する状況、弦や響板に直接スモークをかけるとなると良いとは言えないので注意したほうがよい。
9	ヤマハミュージックジャパンの山田さん観点では、管理の観点も含めて拡張奏法はどうお考えですか？	芸術表現のひとつとしては問題ないと捉えている。
10	音楽表現の拡大に伴い新たなピアノの奏法が生まれて来ることは当然のことだと思いますし、施設管理者の立場からもその知識は必要だと思いますが、通常の使い方をするピアノに対し、消耗の早いパーツなどはありますか？ また、拡張ピアノ奏法を行う公演が予定された場合、その可否を判断する時の基準はありますか？	温湿度管理がなされていることを前提とするが、打弦機構の鍵盤は見えている所よりも奥まであり、シーソー運動をしている。その真ん中にはピンがあり、手前にもブレ防止のピンがある。ピンは鉄で出来ており、鉄と木が交わる部分にクロスが貼ってある。その摩擦を帯びるクロスの部分、又は弦をたたくフェルトの摩擦が消耗が早いと思う。
11	ピアノを管理する上で「湿度」を管理することは意識していますが、「温度」はどの程度気をつけておくべきでしょうか。目安となる気温や湿度があれば教えてください。	温度は15～25℃の20℃程度、湿度は40～60%が目安。自然素材でできているので、人が心地よいと感じる温湿度と同じ。
12	市民ホールの指定管理者です。ピアノの利用率が非常に高く、ホールで利用していないときには練習利用ができるように貸し出してあります。調律後2週間狂ってしまいます。2ヶ月おきに定期調律は入れていますが、間に合いません。調律の狂いに気づいたとき、舞台管理者ができることはありますか？	できるだけ状態をよくするためには、温湿度管理のなされているピアノ庫で管理をする。ピアノ庫が無い場合は、防湿カバーでピアノ全体を覆う、除湿器を用いることで管理を行うとよいかと考える。
13	拡張ピアノ奏法は、あくまでも手法・奏法であって目的ではない。 拡張ピアノ奏法によって何を指すのか、何を目的としてその奏法を行うのか。 ・ピアノ音楽表現の可能性の広がり ・新たな音楽愛好家や観客の広がり ・ホール運営の進化 ↓ 絵画の時代背景などにより、印象派、ロマン主義、写実主義、古典主義、新古典主義などの流派があるが、現代アートは作品形態や技法に囚われない性質を持つのが特徴。ただ、その自由度の一方で意図や意味を感じにくい作品も存在するのが現状。 ピアノを楽器としてどこを指すかは、公共ピアノ(税金で)で何を指すのか、美術館の目指すところと同様な考えられるが、いかがでしょうか？	アーティストの表現を閉ざすこと、後世に拡張ピアノ奏法を紹介する機会を減らしてしまうということで発展性を低くしてしまうことは個人的にはどうかという考えもある。
14	コンサートなどの使用に、ピアノの取り付けのピックアップマイク(山彦)を使用したいとの問合せがあります。ピアノ管理する上で、山彦の使用について、調律師さんに確認しても、調律師さんごとに判断や意見が異なっており、判断に困っております。実際のところは、どうなのでしょう？	・山彦は、下から響板と梁の間にアジャスターで固定し調整するピックアップマイクのことである。響板に負荷をかけ過ぎないように注意すること、また、ピアノの下で作業をするためピアノを傷つけないよう注意することとし、名古屋市文化振興事業団では、舞台管理マニュアル(ピアノの専用マイクの使用方法を内規としている)を作成しており許可をしている。 ・ピアノの響板は柔らかいので、圧力をかけ過ぎないことが大切。

15	<p>●今回のお話を聞き、拡張ピアノ奏法に前向きな姿勢を持つことを念頭に置きたいと思います。その際に、調律師の方の目線から、調律師の方全員が拡張ピアノ奏法に肯定的なのでしょうか。フラットにピアノに対してダメージが有るか無いかでジャッジして頂けるものなのでしょうか。また、ピアノにダメージがあった場合、翌日に利用があった場合はどう対処されたのでしょうか。</p> <p>●拡張ピアノ奏法を行うにあたって、結果として残念ながらピアノに不具合が発生した場合にピアニストなどの表現者側に責任をとっていただいたことはあるのでしょうか。</p>	<p>・正直に言えば映像で拡張ピアノ奏法を見た時はショッキングであった。手で直接触ることではなく、ゴム等を挟んだりする点について言えば、調律作業においてもゴムやフェルト等を使用し弦に触れることはあるため、強度としては耐えるものだと個人的には考えている。ただし講義中の映像では、中音域の箇所で行なう際にベアリングに影響があると音が変わる可能性がある。事前に打合せをされるのが大切。</p> <p>・これまで出会った調律師の方には肯定的な方も否定的な方も両方いました。フラットにジャッジしていただける方もそうでない方もいらっしゃると思います。そもそも、拡張ピアノ奏法に接したことがある調律師の方自体が少ないように思います。拡張ピアノ奏法を前向きに検討していくためには、ピアノ管理者と一緒に勉強していく姿勢のある調律師さんと一緒に進めていかれるとうまくいくのではないのでしょうか。これまで門天ホールでは、事前に申請書を確認して、実施方法について検討してからコンサートに移ってきたため、翌日の利用に差し障るようなダメージが起こったことはありません。</p> <p>・拡張ピアノ奏法に限らず、ピアノが破損することもあります。例えば、主催者側がピアノを移動した際にピアノをぶつけてピアノの塗装が剥げたことなどが実際にありました。その際は、主催者に修理費用を負担してもらったことがあります。</p>
16	<p>国公立等の施設において、初めて拡張ピアノ奏法を実施したいという話が出た場合、実際問題それをして良いという判断を誰が出すのか難しいのかもしれないと思いました。おそらくその施設の館長にあたる役職の人が判断するのかなと思いますが、県の備品（市民の税金を頂いて購入した備品）であるという話が出たように、管理施設内だけでは判断出来ないというケースも考えられるのでしょうか？</p>	<p>・ピアノの使用規定（公共ホールのピアノの使用規定）の指針あったらよいと思う。拡張ピアノ奏法に限らず、そうした使用規定を利用者とも共有できるようなものがよい。全国公文協が率先して作成してほしい。</p> <p>・名古屋市文化振興事業団では最終的には、市役所への確認判断になると思う。指定管理者制度のなかでは、ピアノにトラブルがあり公演が無くなると指定管理を受けられなくなる可能性も考慮するので、市との相談になると思う。</p> <p>・愛知県芸術劇場は劇場の判断としてきた。</p>
17	<p>コンサート調律は、長期契約による保守も含めた専属の調律師をお願いしているが、たまにアーティスト指名の調律師を要求される場合がある。その場合、どの範囲まで認めるべきか？ プロ専属の調律師ならまだしも、知り合いの楽器店をお願いしたいとか言う場合もある。また、ホール調律師の立会が必要となり、倍の経費がいり、元に戻す経費もいる。様々な状況があり対応に苦慮する事が多いので、他ホールではどうされているか？</p>	<p>・名古屋市文化振興事業団では専任の調律師は設けていない。保守点検はYAMAHA・カワイ。</p> <p>・愛知県芸術劇場では基本、専属の調律師。乗り込み調律に来てもらう時は専属調律師が立ち合うことにしている。小さな施設は調律師すら入れず公演を実施することもある。調律を連れてくるのも自由ということになってしまう。主催者側にも調律代を支払うのが厳しい、時間枠が増えてしまうということで説明をさし上げてご理解頂けないこともある。</p> <p>・大きな劇場に、専属の調律師がいる場合も多い。ピアニストが指定（乗り込み調律）をする場合の費用は主催者負担になることが多い。</p>
18	<p>拡張ピアノ奏法によるピアノ使用料と通常のピアノ使用料との違いはあるのでしょうか？ また、ピアノの原状復帰に係る調律経費等の費用は誰が支払うのでしょうか？</p>	<p>料金設定はホール側との認識です。原状復帰費用についても事前打合せで取り決めておくことが必要と考えます。</p> <p>両国門天ホールの場合 ●ピアノ使用料は同じです。次の利用者が調律をせずに使用する場合もありますので、拡張ピアノ奏法時に立会をしていただいている調律師にコンサート終了後にピアノの確認をしてもらっています。そのチェックの際に、戻し調律が必要と判断されたケースはこれまでにありません。●442ではなく、441や440の調律を依頼された時は、442への戻し調律をしていただくことを条件に調律の変更を許可をいたしますので、その場合の戻し調律の費用は利用者負担です。</p>
19	<p>ピアノの保守点検の頻度は年何回が理想的なのでしょう。また、次の点検までの期間はどれくらいを考えたほうが良いですか？季節によっても変わりますか？</p>	<p>理想は年4回季節ごとの実施です。期間は短期間が望ましい。出来るだけ保管環境（ピアノ庫）の温湿度管理を一定にすることがポイント。</p> <p>ピアノの使用や調律頻度、部屋の温度や湿度、またその変化が大きいか小さいか等の保管状況によっても異なると思いますので、保守点検の頻度がこのくらいが良いというのは一概にいうことができません。懐事情によることもありますので、調律師と相談しながら進めるのが良いと思います。</p>

プログラム3「ピアノの移動と安全！技術者目線、メーカー目線」質問

No.	質問	講師からの回答
1	この季節はハンドクリームを塗った手でピアノを触られてしまうことがあるのですが、ボディや鍵盤に付着してしまった場合の対処法はありますか？	<p>・通常お手入れしてるクロスで乾拭きしてください、取れないときは布を湿らせ固く絞ってふき取る、その後乾拭き。</p> <p>・鍵盤用のキークリーナーとボディ用のピアノユニコンを使用して落としています。どちらも楽器店で購入したものです。</p>
2	ダブルキャスターの向きによって響きが変わるという認識を持っておりますが、如何でしょうか	<p>・コンサートピアノは全長275cm、重量500Kgあります。そのボディを3点で支えるわけで、向きが変われば加重点も変わってきます。ボディへのストレスが変化することで100分/5mm単位でアクションの調整が変化し発音機構の動き、ボディストレスも変化し響きも変わってくるものと考えます。あくまで持論です。</p> <p>キャスターの向きが音の響きに関係しているかどうかというのは、接点となる床の状況と相互関係にあると思います。その為キャスターの向きはホールの状況によって変わり、床板の下に根太材や梁があるなど響きのいいところに設置するか、または、少しでも近くなるようにキャスターを向けるなどがあると思います。ピアノを安定させて設置する場合キャスターの向きはハの字にするが、音の響きに重点を置く場合は床の響きのいいところに設置できるようにキャスターを向けるという認識です。</p>

プログラム4 「小劇場でのピアノ照明テクニック！」 質問

No.	質問	講師からの回答
1	LED化を検討しているのですが、GLは照度などハードルがあるかと考えています。導入において暗さなど気になる箇所はありましたか？またそれ以外でもハードルに感じた部分があれば解決事例と合わせてお聞きできれば幸いです。	愛知県芸術劇場コンサートホールは、2017年の改修工事の際にLED灯体に更新した。ブリッジ吊はパン・チルト・大きさの調整が可能な1.5kw相当のスポットを導入、舞台上の2本のサスはそれぞれ15台ずつ、前明かりとしての3列のブリッジには13台ずつ（1番奥は8台）吊り込んでいる。前明かりは凸タイプ、サスはフレネルタイプ、舞台上客席側のサスにはトップとして凸タイプを3台使用。消費電力は、可動部含めて400W。その他、両サイドはフレネルと凸を6台ずつ設置して。暗さを感じることはない。演奏者が眩しさを感ぜないか心配していたが、眩しいというクレームは無い。
2	ピアノ天板がマット仕上げのピアノがあると思いますが、このピアノの場合は、ハレーションはどうなのでしょう？	東京芸術劇場はマット仕上げのピアノの仕様。0ではないが、艶ありのピアノよりもハレーションは少ないかと思う。
3	反響版との関係性で、真上のサスで回路取れない時には、LEDテープライト以外にも対策されていることはありますか？	まず前提の話として、東京芸術劇場では演奏のしやすさとホールの響きなどの関係で音響的にバランスの良いピアノの置き位置を特定している。その上で鍵盤への照明機材の仕込み位置を検証し、設置をしている。現状では、天反の高さが約17mと高い為に、ピアノの設置場所が基本の場所から変更になることはあるが影響が少ない為、吊り替えやリフォーカスを行うことはあるが、別の対策を講じることがほぼない。演出上、サスなどの吊り込みが出来る環境が無い場合にはピアニストとの相談の上で譜面灯などを使い鍵盤の視認性を高める工夫が必要であると思う。

プログラム5「ハードル高し！ピアノの更新！！」質問

No.	質問	講師からの回答
1	1980年開館の公共ホールで、45年使用しているスタインウェイ(オーバーホール1回済)が、メーカーから買い替えを提案されています。使用頻度が低いのですが、使用するときはプロのコンチェルトなどが多いです。今のところ目立った不具合などはなく、行政に予算要求を出すには理由として少々弱いのが気がかりです。東京文化会館の梶山様にお伺いします。どのように予算要求をされているか、また、調律師さんやメーカーから理由付けの資料を頂いているのでしょうか。	メーカーからの資料に加え、日々の調律記録、保守点検記録、更新・修繕記録を提出できるよう管理している。
2	ほぼ毎日小ホール使用している場合、定期調律は年に何回ぐらい入れた方が良いですか？	使用時、どれくらい調律を入れているかにもよると思うが、東京文化会館の場合は、使用時に調律を入れている。スタインウェイは特に使用頻度が高いので、保守点検でしっかりみてもらっている。保守点検報告書を会館側・保守委託会社で保管している。
3	東京文化会館ではピアノを新規購入した個体もあるとのことですが、現場で購入するべきとの判断がなされてからどのくらいの期間を経て、購入に至ったのでしょうか。	まず、現場の調律師から報告があり、それを受けて保守委託業者と調整した。オーバーホール・元の張替えを行い使用し続けていた個体だったのでリスクが高いという共通認識もあった。同時に別の個体でオーバーホールをしていたので、個体の割振りやレンタル料金の縮減、利用者への影響を考慮し予算編成を行った。
4	東京文化会館におけるピアノ購入時の選定、弾き込みはどなた？、メーカーとかにお願いするのででしょうか。経費は購入時に積算するのででしょうか。	購入時の弾き込みは「東京音楽コンクール」で入賞経験の有る方に声かけをし、指慣らしの曲だけでなく、エチュードやコンチェルト等を演奏してもらい、弾き込みをする意味を考えて行ってもらうことにしている。購入時の選定は選定委員会により決定。
5	●ピアノが、その場所(部屋)のクオリティに合わなくなったと誰が判断するのでしょうか。調律師さん任せでしょうか。判断できる職員がいるのでしょうか。 ●大ホールでは耐えられない、小ホールでは耐えられないとは、ピアノがどういう状態になったら耐えられないとご判断されるのでしょうか。またどなたがご判断されるのでしょうか。	会館職員と保守委託業者・(選定委員会で決定する)選定者がともにコミュニケーションを取りながら判断する？
6	ピアノの購入についてクラウドファンディングをやっている会館はありますか？ また寄付で新品を購入する場合は会社などにお問い合わせに行っているのでしょうか？	クラウドファンディング参考例 https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/219/216523.html ・長久手市文化の家では開館時に企業へ寄付依頼し新品を購入した。その後も御礼の挨拶をしている。
7	基本ピッチの変更を要望される場合、どこまでは認める、どこまでは戻し調律まで行ってもらふべきなど教えてください。(質問者の会館は基本441Hz)	・東京文化会館はいずれの楽器も442Hzでお願いしている。これ以外で使用する場合は戻し調律をお願いしている。 ・長久手市文化の家も同様。
8	市民利用が多く、お話にもあったように、発表会で時間がないと調律がないことが多く、そもそも調律を選択肢ない主催者も多いです。打ち合わせ時に、「前回いつ調律しましたか？」と質問をしてきて、最近してるからしなくてもいいと判断しようとする主催者もいます。いついつにしましたよと伝えて、調律せずに本番をしたら、音が合ってなかったと苦情を言われたことがあります。いつ調律しましたか？と聞かれた時、皆さんはどういう返答をされていますか？いつしたか教えてください。	・長久手市文化の家：聞かれればお教える。でも、直前に調律をした方がよい事も打合せで申し添える。 ・東京文化会館：大小ホールでは聞かれることは殆どない。主催者側でリスクマネジメントの一環で対応されていると感じる。リハーサル室においては定期調律をしているが、直前の調律は主催者側に判断をしてもらっている。
9	練習室やリハーサル室などにあり、ピアノ庫などに入れられない、ピアノ庫がないなどの場合の管理で適切な方法はありますか	練習室・リハーサル室などお部屋が24時間温湿度が整っていれば一番良いかとは思いますが、部屋の広さもあるので、ピアノの脚まで覆うような長いピアノカバーを使い、特に梅雨の時期などはその中に除湿器を入れるなどし簡易的なピアノ庫をつくるという工夫をされているホールもある。
10	ピアノの更新について 市直営の多目的ホールを管理しております。大ホール1500キャバ(スタインウェイD274) 小ホール400キャバ(ヤマハCF3)を各1台ずつ保有しております。プロアマ様々な利用が有ります。1983年開業以来ピアノの更新はしておらず、スタインウェイのみ2010年にオーバーオールを実施。年1回の保守点検、ホールの稼働率も高い事から、ピアノの調律も定期的に行われております。特に大ホールのスタインウェイに関して、奏者様やお客様からの評判は良く、保守業者さまの見解としても、現状問題の有る箇所は無いとの見解ですが、これから先どうなるかは保障出来ないという返答を受けております。全国的に同様の規模の劇場様で、もっと古いピアノの使用例等はまだまだ有るのか、更新を急ぐべき状況なのか、そのあたりを知りたいです。	保守業者様の見解は、これまでの経験や知見から、急に状態を崩す事も含めて加味し、近い将来のピアノ更新の予算確保や買替の提案の示唆をされたのではないかと。
11	ピアノを演奏会などで使用の際、ピアノ庫と舞台の温度湿度など環境が違う中で、当日朝一番に環境が整ったピアノ庫から舞台に移動するより、前日から舞台に移動しておいてピアノを慣らしておくのでは、どちらがピアノに優しいでしょうか(調律の有無に関わらず)？	春・秋などの季節の良い時期で舞台上の温湿度が安定していれば置いておいても良いかとは思いますが、冬など乾燥の時期であれば舞台上に移動しておいた場合は、終了後出来るだけ早くピアノ倉庫に戻して保湿の状況に置く。
12	ピアノ移動について、当館は袖にピアノ庫がありフラットな床だが、移動は運搬台を使用した方がいいのか。持ち上げない方がいいこともあると聞いたが？また、調律後の移動方法は	床がフラットで長距離でなければ移動しても問題ないと思う。ただし、重いのでゆっくり動かすこと、又キャスターも消耗品なので移動する機会が多い場合はその点も調律師と連携して注意して頂きたい。運搬台を使用する場合、調律後の移動も同様の考え方。
13	ピアノ庫は温度湿度をほぼ一定に保たれているのですが、ピアノ庫から舞台上に移動するまでに共用通路を通ります。どうしてもピアノ庫との差が出てしまうのですが、そういった場合の注意すべき点を教えてください。	共用通路が数分の移動であり、ピアノ庫と舞台上の温湿度が同じ状況であれば(例えば温度20℃、湿度50%)、短い期間の移動は割り切り、大きな問題は無いのではないかと。
14	使用頻度にもよりますが、オーバーホールや修理しながら何年くらい使い続けられますか？	個人的な体感ではあるが使用頻度の高いホールでは、修理含めて10～15年位でオーバーホール、更新をすることが安心なところである所感。その他、キャバの小さい、P Aを使ったコンサートが多いホールでは20～30年でオーバーホール、買替を検討されるホールもあるので一概に使用可能期間を申し上げるのは難しい。
15	●当館のピアノは導入から30年以上経っていますが、これまでオーバーホールをしていないようです。これから更新ではなくオーバーホールをするのは良く無いのでしょうか？ ●開館当初にスタインウェイを導入して約35年が経過しており、現在は一度だけオーバーホールをしたのみです。ピアノ所有は一台のみで年に一回保守点検を入れています。状態は良好と言ってもらえますが、ホールで使えなくなってくる状態というのはどういう状態ですか？何か基準があったりするのでしょうか？	リスクの問題にもなるが、予算が今すぐ見込めない場合は、更新の計画を練りつつオーバーホール、又は予算が出そうな場合はリスクマネジメント(安全面・ホールへの評判面も考慮し)更新がよいかと思う。
16	ピアニストが調律師を指名してきた場合、どのように対応していますか？ 指定業者がいるからと断るのか、条件付きで許可をするのか、誰でも調律してもいいのか、など、対応があるようであれば教えてください。	長久手市文化の家は、調律は原則指定業者に依頼している。調律師の指名があった場合は、指定業者と協議し依頼する。
17	オーバーホールと新品購入ではどのくらい費用が異なるものなのでしょうか。そして、オーバーホールができない状態の個体というのも存在するのでしょうか。	長久手市文化の家はフルコンピアノを2台所有している。ベーゼンドルファーは購入後19年目でオーバーホールをした。費用は420万円程。スタインウェイは、絃やダンパー、フェルトなどを購入後10年目で交換した経緯がある。

それぞれのピアノの個体状態によっても回答が異なります。プログラム5に係るその他お問合せがございましたらスタインウェイ・ジャパン株式会社までお問合せ下さい。

プログラム6「小劇場でのピアノ音響テクニック！」質問

No. 質問	講師からの回答
1 初期反射としてサイドから出した場合、スピーカー前のお客さんは違和感を感じないのですか？	ハース効果（人間の耳が最初に鳴った音を感知しやすくなること）があるため、あまり感じないと考える。
2 今回のピアノの音を拡声する場面だけに限定した場合、ピアノに返しが有るのと無いのでは、どのようなメリットとデメリットが有るのでしょうか？	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的にピアノだけであれば返しはあまり必要ないと考えているが、蓋を閉めて合唱を行う時等はサイドスピーカーから出すとか、音が返るようにすることがある。 ・蓋や譜面台により演奏者側にも聞こえにくい等の影響がある。
3 今日のプログラムと離れたところにはなりますが、3点吊りで録音をするとき、マイクはどれくらいの高さでどれくらいの距離感を目指して、どこを狙って録音しますか？ピアノ単体のときとオーケストラがいるときに分けて意見をしたいと思います。	<p>3点吊りマイクの方法としてはワンポイントステレオマイクにするのか、無指向性マイクを二つ使用し人間の耳と同様の形で集音する方法、指向性のあるマイクを二つ並べてバランスをとることもある。</p> <p>指揮者からおおよそ2メートル後方、オーケストラの編成によって高さを変えるが基本的にはセンター軸になる。</p> <p>録音と記録録音で分けて考える。</p> <p>マイクの特性とオーケストラの編成によって、検証することが重要。</p>
4 小劇場ということではなくなってしまうのですが、アーティストからホール残響を含めた録音依頼（観客なし）がたまにあります。拡声と録音ではセッティングの違いや気をつけることなどあればご教示いただけると助かります。	<p>観客無しの場合は、客席の方にアンビエンスのマイク（客席にマイクを立てて響きをとる）客席前方に床卓で2本、吊りマイクで2本、舞台なかに吊りマイク何本かと、アンビエンス（客席後方）を用いて、その残響と各々の集音をミックスして録音とする。</p> <p>違いや気をつけることとしては、編成によって異なる。</p>